

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	K.H.	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2 年	派遣国	アイルランド
派遣大学	Dublin City University		
プログラム名	第二クォータープログラム		
期 間	2024 年 6 月 24 日～ 2024 年 8 月 16 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は平日 9 時から 13 時で、途中 20 分の休憩がありました。月曜日から木曜日までは、文法、リスニング、リーディングなど教科書中心で進んでいき、金曜日は毎週 1 時間目でテスト、2 時間目はディベートやレク、英語の復習ゲームなどをしました。2 時間目の内容はクラスメイトと先生で話して毎週決めることができました。

先生が高頻度で変わることもあり、先生によって授業方針が異なりますが、私のクラスの先生は多く英語を話す機会を作ってくれました。文法を学ぶにしても、リスニングでも、毎回ペアワークやグループワークを行いスピーキングの練習をできました。先生が質問や発言をしやすい雰囲気を作ってくれたため、授業内でたくさん質問をし、色々な人と英語でのコミュニケーションを取ることができました。

発音の練習が印象的でした。アイルランド特有の発音の仕方を学んだり、早口言葉など英語をスムーズに話せるような練習をし、先生に 1 人ずつ直してもらったりしました。

課題は毎日あり、先生によって量が違いましたが、基本はプリント一枚か教科書の内容を解く感じでした。ライティング課題が週に一回以上あり、先生がそれを毎回直してフィードバックをくれました。個人的に先生に追加の宿題をお願いしてそこで、自分に足りないと感じるリーディングやリスニングの練習も行いました。

印象に残っている授業は、クラスメイト 1 人ずつ、絵と 2 文程度書かれている紙が配られ、それを元にクラスで一つの物語を完成させるという授業です。お互いに文章や絵を見せてはいけなく、スピーキングだけで自分の内容を伝えなくてはいけませんでした。相手に理解してもらうためには、正確な発音と自分の考えを伝える力、また、相手の文を聞き取るリスニング力が必要でした。それに加え、それぞれの並び順を考えなくてはいけなかったのが英語を聞いて理解した後、ストーリーをたくさん考える必要がありました。難しかったですが、クラスみんなでの共同作業でもありとても楽しく、印象に残る授業でした。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業は文法やリーディング、リスニングに特化した授業でした。週に 1.2 回の長文リーディングを通して、新しい単語やイディオム、国ごとの様々な違いを学ぶことができました。例えば、未解決事件の文章を読んだ時には、そこから派生してクラスメイトの国の未解決事件などを話し合ったりしました。

プレゼンテーションは、原稿を準備してから発表するものと用意せずにその場で文章を考えてプレゼンテーションをしなければいけないものの 2 種類がありました。準備してから行うときは、どのように説明すれば相手に伝わりやすいかを考えながら行いました。その場で行ったときは、先生から少しアドバイスをもらいながら、話を掘り下げて話し続けられるよう考えました。

発音に関しては、アイルランド特有の発音を教えてもらいました。アイルランドでは、他の国と違い lunch や bus と言うときに、アの発音をしないと学びました。初めは聞き取りにくかったですが、徐々に識別できるようになりました。

単語やイディオムも毎週分野に分けて新しいものを学び、テストをしました。

文法は、中学校や高校で習ったものの復習のような形でした。しかし、忘れていた部分もあったのでとてもためになりました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、英語を話すこと自体が少し怖く、頭の中で文章を考えてからでないと発言できませんでした。しかし、とにかく発言をして練習を積んでいかなければ留学に来た意味が無く、英語も上達しないと考え、積極的に発言するように意識しました。私のクラスの先生は、沢山生徒に話す機会をくれ、質問があったらすぐに聞ける環境でした。また、英語を話しやすい雰囲気づくりや間違えてもとりあえず伝えてみるということを大切にしてくれる先生だったので、とても発言しやすかったです。

自分の意見がまとまっていなくても、躊躇わずにとりあえず声に出して発言してみる、ということを経験して意識して過ごしていました。

授業を終えた今、前と比べて英語を話すことにあまり怖さや恥を感じなくなりました。英語が合ってなくても、どうにかして自分の意見を伝えるという技術を身に付けられたと思います。

授業を通して、自分は何が苦手なのかを理解することができました。ディスカッションやディベートは少し苦手で、テーマに対する自分の意見があまり思いつきませんでした。そのため、自分の課題とその克服の仕方を学ぶことができ、さらに英語の勉強に対するモチベーションが上がりました。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

ディベートやリスニングなど自分の弱みが分かり、どのようにその弱みを強みに変えていくかの方法も学ぶことができたので、それを克服すべく勉強を続けていきたいです。また、英語を話して自分の思いを伝える際、自分の単語力の無さに落胆したので、単語の勉強も頑張りたいと思います。今の状態のままでコミュニケーションを取ることはできたのですが、さらに円滑なコミュニケーションをとり、言いたいことをスムーズに言えるよう、努力し続けていきたいです。今回の留学を通して、英語の勉強へのモチベーションが高まったので、TOEIC や TOEFL で高得点を取れるよう勉強を続けていきます。机に向かって勉強することと、実際に英語を使って会話することでは全く異なり、それぞれに価値があると感じたので、どちらもバランスよく勉強していきたいです。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	A.S.	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2	派遣国	アイルランド
派遣大学	ダブリンシティ大学		
プログラム名	第2Q プログラム英語語学研修		
期 間	2024 年 6 月 24 日～2024 年 8 月 18 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業の初めは、昨日の出来事や週末の予定などを共有することで、英語脳にシフトすることから始まる。ここでクラスメイトと思い出を共有したり、行先やお店の紹介を受けたりすることができた。クラス全体で共有する際には、教師が使用する文法に関してアドバイスをしたり、新しい単語を教えたりした。

授業は文法や単語を学習したのちに、学習した文法知識を使ってゲームやディスカッションをする流れで進行した。1 週間に 2, 3 種類ほどの文法を学習し、金曜日に確認テストが実施された。確認テストでは、リスニング・文法・単語・リーディング・ライティングのセクションがあり、約 1 時間テスト時間が設けられた。採点は全体で回答を確認しながら自分で行った。テスト用紙は教師が回収し、ライティングの採点結果と授業内で教師が判断するスピーキングの点数が記入された状態で、週明けの授業で返却された。その都度改善に向けたアドバイスを受けた。

文法の授業は教科書を使って進められた。事前に予習するページが指定されて、練習問題を各自解いてから授業に臨んだ。教師から教科書の内容に加えてより詳しい説明を受けた後に、練習問題の答え合わせをしながら、学習した内容と照らし合わせることで理解を深めることができた。

ゲームは学んだ文法知識の定着を図るもので、二人組のペアで協力してクイズを解いたり、時に対戦型で行ったりした。

グループ活動は主にディスカッションを行った。教科書は、音楽、演劇、犯罪、動物など様々なジャンルのテーマを扱っていて、そのテーマに関連する用語を学習したのちに、教師が提示したディスカッションテーマについて話し合った。クラスには様々な国の生徒がいたため、自分の国とほかの国との違いについて言及することが多かった。

ゲームやディスカッションだけでなく、グループでシナリオを作って劇をしたり、プレゼンテーションをしたりした。プレゼンテーションは架空の会社を想定し、自社の製品についてプレゼンしたり、犯罪の場面を想定しグループ同士で犯人を特定したりと、実践的かつ遊び要素も入った内容で楽しかった。それ以外にもテーマ自体をグループで決定し発表することもあった。私の班は、音楽の重要性について発表した。

課題は、教科書の予習、学習した文法や単語にまつわる復習問題が毎日一部から二部用意さ

れていた。私は、その日の授業内容のノートまとめを欠かさずやるとともに、個人的に毎日日記をつけて、先生に提出しチェックをお願いしていた。このことにより、ライティングに対する苦手意識がなくなるとともに、ライティングに必要な文法能力が向上した。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

これまで文法を英語で学習したことがなかったため、文法に関する用語が理解できず最初は苦勞した。しかし、慣れてくると英語で文法を理解したほうが、日本語では理解できなかった違いや区別がはっきりすることがあった。そのため、文法知識がこれまで以上に深まった。また、一回の授業で新たに学ぶ単語が多くあったため、単語力がついた。

ライティングに関しては、毎週行う確認テストでエッセイや、評論文など多様な種類のライティングを行った。共通する手法もあったが、それぞれ注意を払うべきポイントも存在したため、それらを学ぶことによって多様なジャンルのライティングに強くなった。

授業中は当然英語の使用のみで進行するため、意見を言うだけでなく、質問をするときの英語も自然と身に着けることができた。他国の生徒は積極的に質問や意見を述べるため、その手法から学ぶことが多かった。ディスカッションやプレゼンテーションでは相手の意見を聞くだけでなく、自分の意見を伝える、自分の知っていることについて説明するということに取り組んでスピーキング力が向上した。加えて、ディスカッション中は他国の生徒と話すことで、文化や価値観の違いを知ることが多かった。これは英語以外の学びになり貴重な経験であった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

日本の授業では、わからないことは質問するべきだとわかっていても、質問することが恥ずかしいとどうしても思っていた。しかし、海外の授業では、生徒が授業中に発言することは当たり前で、わからないままでいることのほうが恥ずかしいことだということを実感した。わからないことは質問するという当たり前のことだが、それに慣れていない日本人にとっては勇気のいることに積極的に取り組むようにした。これは、自分は今何が理解できていないのかを常に考えるようになるため、理解の定着につながった。そして、質問をする際にも自分の意見を正確に伝えることが要求されるため、スピーキング力の向上にもつながった。授業を受けていて強く感じたことは、失敗から学びが始まるということだ。授業では完璧は求められていない。わからないことは質問するというのもここから感じたことである。加えて、失敗を恐れて発言しないと自分の意見を伝える力は全く身につかない。失敗を恐れず挑戦した人だけが、今の発言で直すべきポイントや言い方を知ることができる。うまく自分の意見が伝えられず悔しい思いをしたり、悩んだりしたこともあったが、そこから学ぶことのほうが多かった。失敗は学びの始まりだと考えるようになると、挑戦に対して前向きになった。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

この 2 か月で英語力が飛躍的に向上したとは言い難い。しかし、英語を話すことが当たり前
前の環境に身を置き、他人とコミュニケーションをとることが習慣化したことは自分の中
で大きな変化であった。英語を話すことに対する恐怖心や外国人と会話することへの抵抗
感がなくなったことで、今後英語にもっと触れていきたいと思えた。今回の留学で英語力が
完璧に身につかなかった悔しさが、今の英語を学習し続ける原動力にもなっている。もっと
話せるようになりたいという思いが強くなったからこそ、英語学習を継続するモチベー
ションにつながった。今後は自主的に英語を勉強するとともに、特にアルバイト中など外国人
と話す機会があったら、積極的に話したいと思う。